

(平成23年度)

## 第52回 関東甲信越静公民館研究大会報告

日 時 平成23年11月18日(金) 12時30分～16時30分  
 場 所 茨城県つくば市(ノバホール)  
 出 席 者 川村弘史 倉田哲也 縣なか子 小松健二  
 (出席者総数1,200名……内訳:茨城県450 埼玉県130 東京都120 他500)

## 《大会主題》

新しい時代 <協働の時代> の生涯学習・社会教育・公民館活動を推進するための  
 公民館・社会教育委員の新しい姿を探り、創り、そして さあ動き出そう

- 12:30～ 開会の言葉・主催者あいさつ・来賓あいさつと紹介  
 12:55～ 全国公民館連合会表彰  
 (「永年勤続職員表彰」部門における東村山公民館員3名(坂本克子氏、江田順子氏、  
 深野真弓氏)の表彰が大会葉紙面にて披露された。)
- (休憩)
- 13:20～ 《歓迎講演》  
 「ようこそ 茨城が生んだ童謡詩人・野口雨情の世界へ」  
 講師 野口雨情生家資料館館長 野口不二子 先生
- 14:40～ 《基調提案とシンポジウム》  
 上記の《大会主題》について地域活動の「協働」をマネジメント、コミュニケーション、  
 プレゼンテーション等の視点から提案・討議  
 コーディネーター 茨城県社会教育委員連絡協議会副会長 儘田 茂樹氏  
 シンポジスト
- ・ 茨城キリスト教大学教授 川上美智子氏
  - ・ 元茨城県公民館連絡協議会会長 大川 文一氏
  - ・ 茨城大学准教授 長谷川幸介氏
  - ・ 常磐大学教授 金藤ふゆ子氏
  - ・ NPO暮らしの企画舎代表 井口百合香氏

## 【概要】

1. いま、新しい時代 <協働の時代>にing  
 社会創りや地域活動が行政主導で推進されてきたが →社会の変化、価値観・生き方の多様化等から地域住民がより積極的、主体的に活動するも両者に閉塞感 →いま、まさに両者がともに手を携え対等に連携し融合してより良い地域社会・地域活動を創る時代に。
2. 公民館関係者は社会の変化、市民のニーズに敏感になろう  
 地域の活動や人材、交流や発表の機会、地域社会のあるべき姿等々に当事者意識で臨む。
3. 公民館および公民館職員(関係者)のこれからの役割と望ましい姿について  
 ・公民館は、市民活動の拠点「市民活動センター」の性格をもつ施設になるのが望ましいのでは。  
 ・地域の自治会組織との連携は不可欠、地域内外の知や情報の交流拠点化を促進しては。  
 ・住民の視点でニーズを捉え積極進取の事業企画を(プレゼンスのある職員たれ!)
4. 地域活動団体(ボランティア、NPO)等との<協働>を積極化するためには  
 ・当該団体の活動状況を把握・理解し、その団体を積極的に市民に紹介し、最大限の支援を。  
 ・社会に貢献する団体には優先的な公金支援を。

## 【所感】

“公民館”は類似する「生涯学習センター」「文化センター」「まちづくりセンター」「コミュニティセンター」「交流センター」等の出現により輝きを弱めたかのように思われる。しかし、新しい時代 <協働の時代>を迎え、公民館は新たな命(使命)を授かったように思う。即ち、公(行政)と民(市民)が関係しあって、感じあってより良い地域社会創りをする、その拠点となることである。

以上